

学生会だより

関西支部

「シニア会と学生会との交流会」

1. はじめに

関西学生会では関西地区における機械関連の24の大学、高等専門学校が、ほぼ毎月一同に会する会合を持ち、一致協力して「メカライフの世界」展、「卒業研究発表会」等の行事を運営、実施している。学校の枠を超えた交流・情報交換が行われ、学生たちの日常の一部になっていると言っても過言ではない。学生の将来の大会への寄与も期待される場所である。行事のうち、ここでは「シニア会と学生会との交流会」について紹介する。

2. シニア会と学生会の交流会の内容

関西支部シニア会は本会において最初に組織されたシニア会である。企業経験の豊富なシニアは、自己の経験を若い学生に伝えたいとの強い希望を持たれておられる。

今年度の「シニア会と学生会の交流会」は2013年10月27日に大阪産業大学梅田サテライトキャンパスで開かれた。参加者は学生会から14名（男11名、女3名）、学生会幹事2名、シニア会から7名であった。交流会ではシニア会の林和宏氏の司会のもと、企業のハイレベル技術者、研究者を経験されたシニアからの開発経験談、成功経験、各種状況における振る舞い方、ときには失敗が、パワーポイントを用いて語られ、学生たちは日頃の授業ではあまり見られないほど熱心にメモを取りながら聴講していた。

初めに基調講演として、浅田忠敬氏

の船舶ディーゼルエンジンの開発に賭けた技術者としての話があった。非常に熱心で力が入った講演で、将来設計を考えている学生にとって貴重な内容であった。

続いて関西大学の学生会運営委員MI学生3名より「学生からの提言」という大きなテーマで1名7分程度のプレゼンがあった（図1）。内容は学生生活、研究、インターンシップ、海外経験、自己紹介などで、そうそうたるシニアの前でハキハキした発表と、日頃「よく勉強」していることがうかがわれる発表は大好評であった。後ほど、シニア会の方から、発表は「日本の大学生はアメリカに比べ勉強していない」という固定観念を打破するハイレベルなものであり、「提言」としても有効であるとの感想をいただいた。

その後、パネルディスカッションに移り、シニア会の土井健志氏、森本吉春氏、溝口孝遠氏からの発表があった（図2）。熱意のこもった貴重な経験談であり、時間が非常に短く感じられるほどであった。

その後、軽食、ドリンク、お菓子が配られ、着席形式の懇談会に入った。懇談会では学生から活発な質問が出た。とくに、女性技術者が「ものづくり現場」で働くことの可能性についての質疑応答があった。「現場作業者と共に女性技術者が働くことはいろいろな意味で壁がある。ただし女性に適した職種は必ずどの会社にもあり、女性技術者の力を必要とする」とのシニアからの返答は共感が得られるものであった。



図1 学生会からのプレゼンテーション



図2 パネルディスカッション

3. おわりに

以上、あっという間に過ぎた4時間であり、最後に全員で記念撮影をして閉会した。昨年に引き続き当交流会は2回目の試みであるが、学生にとって価値ある内容であったと思われる。今年度は、参加者への周知不足もあり、学生参加は比較的少数であったが、今後、行事を盛り上げていき、世代間コミュニケーションの一助として定着することを期待している。

〔大阪府立大学 大久保雅章〕